

会 議 録

1 会議名

令和5年度第4回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・若者の流出を防ぐ取組について（公開）

3 開催日時

令和5年11月20日（月）午後6時30分から午後7時35分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原 武、
笠原幸博、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一
（欠席者2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：大島副会長、笠原武委員に依頼

議題【協議事項】若者の流出を防ぐ取組について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

本日の会議では、八千浦地区明るいまちづくり協議会の皆様との意見交換会でいただいた意見や、第3回の会議での平野委員からの提案を踏まえ、若者の流出を防ぐ取組についてご協議いただきたい。

・資料No.1「若者の流出を防ぐ取組について」、資料No.2「八千浦区地域協議会における自主的審議事項」に基づき説明

すでに設定している自主的審議事項との関連も含めて、今回協議事項として挙げさせていただいている若者の流出を防ぐ取組について、今後の協議の方向性を協議いただきたい。まずは委員の皆様がそれぞれお持ちの知見を委員の皆様の間で共有していただき、それを踏まえ自主的審議事項との関連も含めて、今後の本件の協議の方向性についてご協議いただきたい。

【仲田会長】

ただいま資料の説明と議論の方向性について説明があったので、これからしばらくの間皆さん方からいろいろな意見を出していただいて、自由に意見交換をしていきたいと思う。まず、人口推移等について質問があれば先に出していただき、なければ皆さん方からご意見をいただきたい。

【大島副会長】

この資料の人数は、実際に上越市に籍がある人か。

【丸山主任】

こちらは統計情報ということで住民基本台帳に登載されているものなので、実際にここにいるかどうかというところまでは定かではない。進学の際に住民票を移さずに別の場所に転居している場合は、おそらくこの中には表れてこないと思うので、そのあたりも斟酌いただきながら、データを見ていただきたい。

【仲田会長】

特に人口推移の3ページ目のグラフを見ていただくと、今の副会長の言っていることがある程度わかる。真ん中のブルーを見ていただくと、2016年、2017年で、非常に大きく変化をしているのが見受けられる。では、2016年、2017年、今から5、6年前に自分の身の回りで何があったか。3ページ目のグラフを見ていただくと、2016年、2017年に15歳から23歳までの若者の動きが非常に特徴的に変化が出ている。2018年以降になると、少しまた落ち着いている。要するに、2017年、2018年に大きな変化があって、2019年から若者の地元への定着が、そんなに大

きくは動いていないということが見えてくると思う。住民基本台帳に登録してある人の動きではあるが、統計上は有効なデータである。

それと、1 ページ目の各年代別の構成割合を見ると、青が圧倒的に少なくなっている。統計的な割合でいくと少子高齢化の傾向はあるが、この八千浦地区においては、少子化の傾向が端的に表れている。その辺を見ていただいてご意見をいただければと思う。

前回の地域活性化の方向性の構成要素の議論の中で、若者の流出を予防するにはどうしたらいいのかということで、意見交換、議論をしていこうということで今日の会議になっている。本当に些細なことでも結構なので、意見を出していただければと思う。

2016年、2017年、2018年を見ると、3 ページ目は15歳から17歳は高校、18歳で大学進学、就職、23歳で一定程度就職、地元定着になるのかどうかということになるが、2 ページ目のグラフからすると、3歳刻み、2歳期間になっているから、2年前どうだったのかというふうに見ていくと、「えっ、何でこんな数字になっちゃうの」となる。特に2 ページ目のオレンジ色の数字が、2012年の142人から2022年の94人と落ちている。1 ページ目の0から38歳の落ち具合も、落ちていることは落ちている。出生率は、一番下の0から2歳の数字と、15から17歳の数字を比較してみると、面白い現象だと思う。というのは、2012年の一番下の青い数字が83から減っているが、2016年は80に増えている。85、88、93と増えている。ということは、産まれている子供が少ないのかというと、少なくない。けれども、15から17歳のオレンジ色が、2016年から落ちている。産まれている子供は増えているのに、この辺に何かこの地域の特徴があるのではないか。

【伊倉委員】

一番上の36から38歳が一番数が減っている。

【仲田会長】

多分36から38歳は企業の転勤がある。子供がこっちにいても、転勤で動いている。この辺が若者の流出がどういうふうに動いているのか。2 ページ目は、数字的に見ると2016年から2019年の0から2歳の人数の動きと、伊倉委員が言われたように一番上の36から38歳は109から119で、そんなに落ちていないということで、数字的にどうなるのか。これを見ると、産まれてこないから少ないというふうに言えなくてもないが、ただ、グラフ全体は右肩下がりである。全体年齢分の全体の人数というのは、そんなに大きな変化はない。ただ36から38歳の変化は大きい。若者と言われるさっ

き言った部分でいくと、そんなに大きく変化していない。というのは、2ページ目の21から23歳の数字は、ずっとそんなに大きく変化していない。ところがその下の18から20歳が、ものすごく大きく変化している。ギザギザで変化している。その辺の若者の動きはどうか。このグラフ見て何か感じる事、ご意見、感想でもいい。

【伊倉委員】

二十歳前後の人たち、例えば働き始めた人たちはやっぱり動かない、一番動いていない年代になっていると思うが、10年ぐらい経つと、やっぱり動きが出てくると思う。

【仲田会長】

景気に左右されているのかどうかはわからないが、2016年から19年、コロナが始まったのが2020年。2020年、21年、22年はコロナの影響があるのかといったら、そんなことはないだろうと思う。不景気だというから、働き盛りがどうなっているのか、或いは進学がどうなっているのか。若者といわれる大学が終わってからの24歳からの動きというと、緑色のコマから上五つを見ていただくと結構面白い。自分が住んでいる町内を見て、今から5年前というところとどんな人がいて、どれだけ人数がいなくなったか見ていただくと、おおよそわかるかなと。ぜひ、いろいろな意見を出していただきたい。特に人口推移の3ページ目を見ていくと、若者がそんなにこの地域から出ていっているのかという、その辺はどうか。

【大島副会長】

グラフだけではなかなか考えが浮かばない。私は地元の運送会社に勤めているが、グラフと関係があるかもしれないのが、転職する人が大体30歳過ぎから40歳前ぐらいが非常に多い。高校を卒業してからずっと勤めている人ではなくて、職がいくつか変わっている人だが、見ていても30歳過ぎから40歳手前は、もしかしたら転職の最後のチャンスで動いているのもあるのではないかな。運送業界、私の会社だけではなくて、周りの運送会社を見ても、やはり同じような傾向があるので、私が知っている中ではそれが一つの要因でもあるのではないかなと思う。

【仲田会長】

今言われた部分というのは、年齢別とは直接関係ないかもしれないが、ただ地元に着するかしないかというのは、前回も出たが、地元に着するためには働く場所があるのかという、それが大きな課題の一つになっている。その辺も踏まえて、ぜひ意見を出していただければと思う。感想も含めて何かご意見を出していただきたい。

【渡辺孝三郎委員】

問題はもう何十年も前から指摘されているが、なかなかいい案が出ていない。シンクタンクで本や新聞等にいろいろと載せてあるが、具体的な案が出てこない。問題点だけは、指摘されてきてわかるのだが、解決策が。

【仲田会長】

今の日本の少子化対策、児童手当や教育費、就職等についていろいろと言われているが、このまま人口が減り続けていけば何百年後にはゼロになる。だからゼロになるのを前提として何かを考えているかという、そうでないということが最近言われている。人口動向からいって1ページ目を見ると、年齢構成別に言うと、確かに出生はすごく落ちている。若者と言われる人たちが、全体の数が少なくなっているのか、自分たちが若かったときの地域の子供たち、同年代と、今見ている自分の子供や孫を見たときに少なくなっていることが、若者がいなくなっているということなのか、その辺の感想も含めて意見を出していただければと思う。自分の町内を見て、空き家がある、年寄り世帯だというのは、子供が少なくなったから若者が少なくなっているのか、少ない子供が出ていって年寄りだけになったのか。柳澤委員、何か感想も含めてあるか。

【柳澤委員】

皆さんに、いきわたっているような話ばかりになってしまう。非常に切ない話である。

【仲田会長】

流出を予防するというのが今日のテーマである。いなくなっているという事実を、まず我々が認識できるか等、その辺も含めて。

【平野委員】

事務局に協力いただきたいが、高校を卒業して就職、専門学校、短大、大学へ行く。その辺の八千浦地区の割合は調べることはできるか。県立高校であれば県の教育委員会が絡んでくると思うが、私立の高校は県は絡まないと思う。高校を卒業して、県外へ行く人数が結構いると思う。その辺がわかれば、今後、流出を止めるのにどうしたらいいのかということも少し前へ進むような気がする。その辺を調べられたら、調べていただきたい。

【佐藤所長】

今のお話は、調べることは可能かとは思いますが、相当なお時間をいただくことになる。我々が算出するわけではないし、県立高校も私立高校も、多分県のほうで把握されてい

るのではないか。今日はデータを持ち合わせていないので、お時間をいただくことになると思う。

【平野委員】

年齢別にできたら調べていただければありがたい。できれば八千浦地区だけでお願いしたい。

【丸山主任】

年代としては時系列でどういう動きがあったかということが、情報としては必要になると思うので、今回の資料でお示ししているような10年分ぐらいの実績が把握できればいいと思う。幸いにして八千浦区は八千浦中学校、一つの中学校からいろいろな高校に進学されていると思うので、附属中学校に通っている方もいらっしゃるかもしれないが、基本的には八千浦中学校から各学校、高校に進学された生徒が、その後どのような進路を取ったかというところがわかればよいか。関係する機関などに確認させていただくが、個人情報だから教えられないと言われればそこまでかもしれないが、方々当たってみたいと思う。

【仲田会長】

自主的審議事項の放水路の件と、八千浦のまちづくりは、この若者の流出を防ぐためにはということと連動しているので、その若者がどういう動きをしているのか。高校、大学が終わって、この地域からいなくなって戻ってこないのか。或いは、最近の動向としては、先ほど副会長から出されたように、経済状況によって転職等がどういう状況になっているのかということがなかなか掴みにくいので、出て行く人をどうやって防ぐかということに到達できない。こういうことがわかればできるのではないかとということも含めて、意見を出してほしい。

【羽深委員】

若者の流出を防ぐにはどうするかという対策は、非常に難しいと思う。たびたび話にも出ているが、何十年か前と比べると子供が少ない。小学生、中学生が、すごく少なくなっている。その原因としては、高校生、社会人も含めての話だが、一つは、八千浦に限らず、上越市及びその周辺に、自分がやりたい仕事をさせてもらえる会社がないということがあろうと思う。残る気持ちがあっても働き口がないから、県外や、首都圏へいってしまうので減るということが一つあろうと思うし、核家族化ということで、両親が建てた家、それからもっと前からの家があっても、結婚すると同居したくないということで、

八千浦外に出ていくというその二つが大きな原因かと思う。私の家の近所でもそうだが、ほとんど年寄りばかりになって、子供たちがいてもよそに家を建てたり、中には八千浦区の中で家を建てるという人もいるが家を出てしまう。もう一つ言えば、子供が産まれない。若い人たちも結婚して出る人もいるが、まず若い人たちが結婚しなくなっている。私の近所でもそうだし、会社でも、30歳、40歳になっても結婚しないという人は、昔と比べるとかなり多くなっている。こんな言い方をしているのかどうか分からないが、何十年か前、私たちが若い頃であれば、女性で30歳過ぎても嫁に行かないなんていうと近所に恥ずかしいとか、親も「お前何とかしろ」ということもあったが、今は当たり前のようになっているので、30歳、40歳になっても、家にいても本人もあまり気にしないのだろうし、親もあまり言わない。そういう時代になってきているのではないか。子供が産まれないということになると、若者が減るのは当たり前で、そういった現状がある中で、八千浦から若者の流出を防ぎたいという重たいテーマだが、なかなか難しいと思う。

【仲田会長】

感想でも一般論でも何でもいいので出していただいて、今日でこれが終わるわけではないので、もう少し課題として掘り下げていきたいと思っているので、こういう方向で論議したらどうかということも含めて、ご意見があったら出していただきたい。

【笠原武委員】

現状の八千浦地区を見ると、黒井、荒浜はどちらかというところ工業的な線、国道のほうは工業団地である。そうすると住宅が作れない状態。線路の北側を見ても空き地があっても住宅を作れる用地ではないというのが、八千浦地区全体を見渡すとそんな地域になっていると思う。うちの孫もそうだが、若者が大学を終わっても、この上越には働き口がないということで、大きい新潟のほうに仕事口を求めてしまう。上越市に戻ってこないというような現状がある。下荒浜を見ても、住宅を増やせるところは何か所かあり、そこは家を建てている人もいるが、全体を見ると若者が戻ってこない、或いは若者がいても独立してしまうということで、地元に残る生活環境がなかなか手元にないということが、外へ出ていくという基本的な考え方の上に乗っていると思う。それを少しでも住宅を考えられるような地域に変えていく、検討していく、そういうことも考えていかなければいけない時代になってきているのではないか。

【仲田会長】

今お二人から意見が出ているが、予防をどうするかということよりも、現状認識と、若者が流出しているであろう要因、原因は何かという、そちらのほうを攻めていったほうが、議論としてわかりやすいと思う。今言われているのは、まちづくりや地域性が特にあるし、先ほどの人口統計でも出ているように、少子化の影響で割合としては減っていることは間違いない。我々が実態として、ここから若い人が出て行って戻ってこないということを実感として感じているかどうかということも含めて、こういう課題を議論していったらどうかというものを出示していただけないか。

難しい課題なのですぐに意見が出てくるわけではない。前回、地域活性化の方向性の構成要素の中で、地域の担い手の育成あたりからこの問題が出されているので、今の中学生と中学生を持っている親世代の動向。今の中学生の親世代が地域に定着しているかどうか。その辺の実態として、皆さん方の住んでいる地域で、一、二、事例を見つけて、今の中学生の親がどういう状態で、兄弟、或いは労働環境がどうだったのかということがあれば、この辺の若者がどうしていったらいいのかということの要因や、何かきっかけが見つかる気がする。皆さん、その辺について、これからの議論も含めて、何か意見があったら出していただきたい。

【大島副会長】

なかなか難しい問題だが、その問題となっている中学生等に、できればアンケートを取りたい。将来何をやりたいかや地元に残りたい等、私たちはもう小中学校から大分離れているので、実際に問題となっているその子たちの今考えていることをピックアップして、そこから何か見つかるような感じがする。私たちの学生時代と違い、スマホが普及して、いろいろな情報が誰に聞かなくても自分だけでも手に入る状態。外のいいものを、どんどん見ているので、先ほど羽深委員がおっしゃったが、地元の魅力と外の魅力と比較するとやはり外へ行ってしまおうと思う。先ほども申し上げたが、小学生や中学生が将来何になりたいか。できれば、そのアンケートを作って、結果の中から考えていったほうがいいのではないかと思う。

【仲田会長】

他に意見あるか。これは、次回以降も継続的にテーマとしてやっていかざるを得ない。先ほど平野委員が出されたような要望もあるし、今副会長が言われたことは、多分学校に何かあるのではないかと思う。或いは、中学生の代表、生徒会あたりと意見交換をやる等、実態を把握するにはいいと思う。具体的に流出予防として、実態を把握していく

ということと、八千浦の環境と子供たちの意見や動向を、少し実態把握をした上で議論を進めていくという方向になると思うがそれでよいか。(委員より、はいの声) 事務局に手間はかけるが、先ほど平野委員から出された部分については、そんなに細かなくてもピックアップで結構なので、その辺を出していただくのと、できれば中学校あたりに、少し様子を聞いていただいて、子供たちの進路状況等のアンケートや統計のようなものがあれば提供していただいて、それを我々の議論のネタにして、次回以降、引続き要因を深掘りしていく。それと、自主的審議事項のまちづくりに、それをどう反映させていくかという、このような議論の方向性でよいか。(委員より、はいの声)

事務局、何か他にやり方があれば出していただきたい。

【丸山主任】

今ほどいろいろいただいたご意見を踏まえて、市の教育委員会や各方面をまず当たらせていただきたいと思う。またアンケートとなると、こういった設問にするかといったことや、中学生はもうすぐ高校受験を迎える時期でもあるので、すぐに動き出すよりは、願うするタイミングも含めて、しっかり協議を重ねながら進めていけばよいかと思う。

【仲田会長】

また事務局と相談をしながら、今出されたような課題を含めて、今後の議論はこれで終わりではないということだけ確認をさせていただきたい。

次に、その他に移る。

【丸山主任】

次回はこの続きからにさせていただこうと思うのでお願いしたい。

次回の協議会の日程については、先ほど平野委員から事務局にあった要望等も、その時までには答えられるかどうかも含めて、まず確認してから日程の調整をさせていただきたいので、また改めてご案内をさせていただきたい。

続いて、事務局では、地域協議会の活動報告会と委員の公募説明会の開催を検討している。令和6年4月の地域協議会委員の改選に向けて、2月の中旬から3月上旬の間で、第四期八千浦区地域協議会の活動報告会と、公募の説明会といった形で開催したいと考えている。第三期は、令和2年3月に開催予定だったが、当時は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動報告会は中止となった。その後第四期の間には地域活動支援事業の説明会ということで、令和2年度、3年度は開催していたようで、今回は先ほどの活動報告会と公募説明会ということで、また2月の中旬頃から3月上旬頃

の間で開催をさせていただきたいと考えている。前回は平日の6時半からの時間帯で開催していたので、同じような時間帯で会場の空き状況も含めて日程調整をさせていただき、またご案内をさせていただきたいと考えている。日程は、会長と相談させていただきながら決めたいと思う。

【仲田会長】

我々の残された任期中にやらなければいけない仕事なので、今出されたスケジュールで具体的に協議をして、また皆さんにご案内をさせていただきたいと思う。市議会議員の選挙もあって、その辺の動きも多分出てくると思うので、ぜひ日程が決まったらご出席をいただきたい。

【仲田会長】

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。